

〈解答〉

- ① 1 ア
2 ウ
3 エ
4 鑑真
5 ①：天台 ②：真言
6 (1) ①：摂政 ②：関白
(2) 文化：国風文化 記号：イ

配点 各1点 10点満点

〈解説〉

①

- 古墳時代の4世紀から5世紀にかけて、大和政権は、東北地方の南部から九州地方までを統一した。イは弥生時代、ウは律令政治が進展した奈良時代、エは1世紀ごろで弥生時代のようなすである。
- 飛鳥文化は、6世紀中ごろから7世紀中ごろにかけて、都のあった飛鳥地方（奈良県高市郡明日香村一帯の地域）を中心に栄えた文化である。仏教をもとにした文化で、朝鮮からの渡来人の子孫が大きな役割を果たした。聖徳太子〔厩戸皇子〕の建てた法隆寺の建築や仏像が代表的な文化遺産で、中国をはじめ、インドやギリシャの影響も見られる。
- ア口分田は6歳以上の全員にあたえられた。イ防人は北九州の防備にあたった。ウ律令の戸籍に関する規定により、戸籍は6年ごとにつくられた。
- 鑑真は唐の僧で、日本への渡来を決意し、失敗を重ね盲目になりながら6度目の753年に達成した。759年に唐招提寺を建て、朝廷の保護のもとに正しい仏教の教えを広めた。
- 天台宗を伝えた最澄は、比叡山（滋賀県・京都府）に延暦寺を建て、真言宗を伝えた空海は、高野山（和歌山県）に金剛峯寺を建て、山奥の寺で学問やきびしい修行をした。
- (1) 摂関政治は、11世紀前半の藤原道長・頼通のときに最も栄えた。
(2) 国風文化のころ、漢字を变形した仮名文字が宮廷の女性に広まり、紫式部や清少納言らの女性がすぐれた作品を残した。ア、ウ、エは奈良時代の天平文化のころの作品で、日本書紀は、神話や伝承、記録などをもとにした歴史書、風土記は、地方の国ごとに、自然、産物、伝説などを記した書物、万葉集は、大伴家持がまとめたといわれる和歌集で、天皇や貴族だけでなく、防人や農民の歌も収められている。